

第26回日本医療ガス学会学術大会 共催教育セミナー1

- 本セミナーは整理券制ではございません。
- ハイブリッド開催。

日時

2023年**10月21日** (土) 9:00 ~ 9:50

会場

御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6

酸素分子の生物学的作用から より良い酸素療法を考える

座長

齋藤 繁 先生

群馬大学大学院医学系研究科 脳神経病態制御学講座
麻酔神経科学 教授 / 病院長

演者

中根 正樹 先生

山形大学医学部附属病院
教授 救急部長 高度集中治療センター長

第26回 日本医療ガス学会学術大会・総会 共催教育セミナー1

酸素分子の生物学的作用から より良い酸素療法を考える

酸素療法は現代の医療現場では在って当然なものとなっているため、投与方法や投与量など、それほど厳密にはなされていないのが現状であろう。酸素は、本来は低酸素血症の治療として用いられるべきだが、そうでない状況でも漫然と使用されており、再考すべき時期に来ているかもしれない。

過剰な酸素投与では、高濃度酸素による気道や肺への傷害、高酸素血症による全身への悪影響などの弊害が報告されており、後者では活性酸素や血管収縮の関与が問題視されている。そのため適切な酸素療法が求められるのだが、患者群によって優先される臨床アウトカムは一定ではないため、常にベストな方法を決定するのは難しい。

呼吸中枢、神経支配、肺・胸郭・呼吸筋、換気メカニクス、死腔、正常肺と病的肺、呼吸障害、拡散、換気血流比、シャント、肺内ガス交換など、呼吸に関して考慮すべき多くのことがある一方で、生理学的に最も重要な目的は酸素需給バランスの維持である。全身への酸素供給が足りているのか監視しながら過剰な酸素投与による弊害を避け、より良い酸素療法を追求していくために、病態と臨床アウトカムを的確に設定したレベルの高い臨床研究が必要と考えられる。